

あいち病害虫情報 最新情報

令和5年10月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

向こう1か月の気温は高い

名古屋地方気象台10月12日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多い見込みです。

果樹の病害虫

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）について、予察灯における9月の誘殺数は、豊橋市で多く、新城市でやや多い状況でしたが、10月（第1半旬から第2半旬）の誘殺数は、いずれも平年並の状況です。また、県内5か所に設置したフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの9月以降の誘殺数は、豊田市で多く、その他の地域は平年並の状況です。向こう1か月の気温は高いと予想されているため、カキやカンキツなどの果実への被害が続くおそれがあります。ほ場での発生状況に注意してください。

ナシ黒星病の発生が多かったほ場では、次作への伝染源をなくすことが重要です。落葉の処理やりん片への感染を防ぐ農薬散布を実施しましょう。

モモハモグリガについて、小牧市に設置したフェロモントラップにおける成虫の誘殺数が9月から多く推移しています。ほ場での発生状況を確認しましょう。

露地野菜のチョウ目害虫

10月上旬のキャベツほ場におけるチョウ目害虫の発生量は、ハスモンヨトウで多く、オオタバコガでやや多く、シロイチモジヨトウで平年並となっています。また、コナガの10月上旬の発生量は、キャベツほ場でやや少なく、ハクサイほ場では平年並です。

しかし、いずれの種もフェロモントラップにおける誘殺数は多く推移しており、注意が必要です。ほ場をよく観察し、発生が確認されたら適宜防除しましょう。

施設野菜の病害

トマト黄化葉巻病が発生しているほ場があります。タバココナジラミを施設に入れないように注意するとともに、防除を徹底しましょう。

曇雨天が続く場合は、トマトすすかび病やナスすす斑病など病害の発生状況に注意しましょう。

イチゴの病害虫

ハダニ類は多発した後では防除が難しくなるので、発生初期に気門封鎖型薬剤や化学合成農薬等を活用し防除しましょう。化学合成農薬を使用する場合は、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

炭疽病は、気温の高い状況が続くと発生量が多くなります。引き続き発生に注意し、発病株を見つけたら速やかに抜き取り、適切に処分しましょう。

ダイズの害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市、安城市で多く、弥富市、西尾市でやや多い状況です。また、オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、安城市と西尾市で多い状況となっています。

9月下旬の巡回調査におけるダイズの吸実性カメムシ類の発生量は平年並です。しかし、水稻収穫後の水田からダイズほ場へ移動し、加害する可能性があるため、ほ場での発生状況に注意しましょう。

チョウ目害虫や吸実性カメムシ類の発生が多いほ場では、収穫前日数に注意して防除しましょう。

水田の秋期耕うんを行いましょ

9月下旬の巡回調査におけるニカメイガの被害株率は多い状況でした。ニカメイガやイネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカは、水田畦畔の雑草やひこばえで越冬します。また、イネ白葉枯病の病原菌は、被害わらや、もみ、イネ科雑草で越冬し、次作の発生源となります。越冬量を減らすため、水稻収穫後の耕うんを始めとする、秋期管理を実施しましょう。詳細については、10月2日発表の「水稻の秋期管理情報第1号（ニカメイガ、イネ白葉枯病、イネ縞葉枯病）」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820